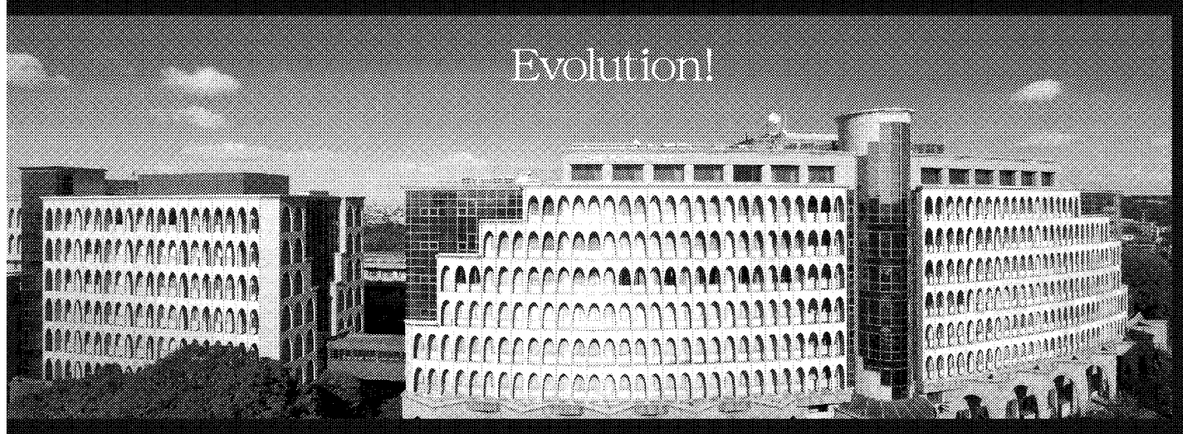
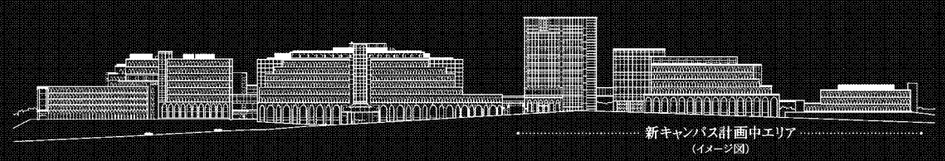
CHUKYO UNIVERSITY

Evolution!



News

2013 中京大学 新・名古屋八事キャンパス始動!



それは、東海地区屈指の文教地区八事から始まる、新しい挑戦。

2013年4月、ここに集う志高き人に向けて、さらなる教育設備の進化＆コンテンツの深化が進行中。

あなたにとって、最高の場であり続けるために——。

中京大学

※新キャンパス計画は予定です。変更となる場合があります。

中京大学／国際教養学部・文学部・国際英語学部・心理学部・法学部・経済学部・経営学部・総合政策学部・現代社会学部・情報理工学部・スポーツ科学部
○お問い合わせ先…中京大学入試センター 〒466-8666 名古屋市昭和区八事本町101-2 TEL.052-835-7170・7173＜電話受付時間＞平日9:00～17:00(土・日・祝日休)

PANBIL INDUSTRIAL ESTATE

Panbil Industrial Estate

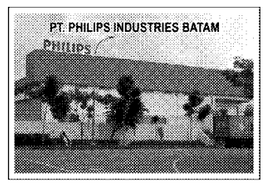
投資に関する全てのお手伝いをいたします

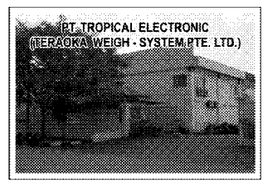
130ヘクタールの土地を
バタムの戦略的な中心部に用意しています

バタム島

投資への利点：
・自由貿易地帯
・外資100%出資可能
・80年の土地使用権（延長も可）
・豊富な労働力

幅広い産業促進のための環境
・1,200m²～5,000m²の工場操業が即可能
（購入、レンタルはお好み次第）
・独自の設計での工場建設も可
・工業団地の自家発電、給水も完備
・従業員用の宿舎、リクリエーション施設も完備
・他社に負けない競争力
・ワンストップサービスでの支援活動





Batam :
PT. NUSATAM PROPERTA PANBIL
Panbil Plaza, Jalan Ahmad Yani
Muka Kuning - Batam 29433, Indonesia
Tel. +62 778 371000, Fax. +62 778 371100
www.panbil.co.id

連絡先：

–Agnes Budiman
Mobile : +62 811692521
E-mail : agnes@panbil.co.id

–Ricky R.P.Johnny
Mobile : +62 81372041888
E-mail : ricky_rpj@panbil.co.id

BBK 自由貿易特区 バタム BATAM ビンタン BINTAN カリムン KARIMUN

東南アジアの生産拠点としての重要性高まるエリア

バタム島 BATAM — 充実したインフラが整う

BBKのなかでも外国企業の誘致がもっとも盛んな地区がバタム島だ。1971年に外資受け入れ窓口として、バタム工業開発庁（BIDA）がインドネシア大統領の直属機関として設立され、シンガポール政府の支援を得て開発を始めた。

物流の要所シンガポールに近い利便性や安価な労働力などを背景に輸出型企業の立地が進む。現在、同島内には26の工業団地があり、800を超える外国企業、約6000の国内企業が立地する。基幹インフラが整備されているため、パナソニックやエプソン、巴バルブなどの日系企業からの投資も盛んだ。

島には四つの貨物積出港と五つの乗客用のフェリーターミナル、インドネシア最長の滑走路を備えるハン・ナディム国際空港があり、ジャカルタ、シンガポール、マレーシアなどをはじめとする主要都市と頻繁につながる。

電力は国営電力会社からの供給のほか、国営のガス会社から発電用、民間事業用にガスの供給を受けることができる。また、水資源は島内8カ所の貯水池で、毎秒4440㍑の供給能力を持つ。工業、貿易、観光、三国貿易という四つの面において戦略的な投資先として各国から注目されている。

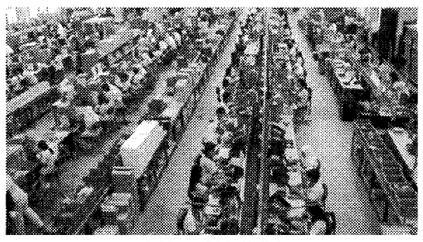
インドネシア最長の滑走路を備えるハン・ナディム国際空港

ビンタン島 BINTAN — 広い用地を確保できる

ビンタン工業団地はバタム島のバタミンド工業団地（BIP）と同じ経営の臨海工業団地である。ビンタン工業団地はバタム島のBIP開設から4年ほど過ぎた94年7月に操業を開始、500㌶の既開発用地の標準工場には日本電産、住友金属鉱山、第一精工などが進出しており、従業員1万5000人を収容できる寮も団地内に完備させている。新日本製鉄の関係会社の吉川工業が7割出資する吉川半導体グループ企業でビンタン工業団地の10%を占める新たな産業としてシンガポール、マレーシアとインドネシアの共同作業で新たな経済発展を形成しつつある。

ミコンダクタは大工場を構え、半導体組み立てと試験を年間の休日ゼロで、24時間操業している。

ロバン工業団地では、3700㍍の衣料製造工場がスタートし、有望な産業として期待されている。また電子機器生産も同様に有望視されている産業の一つ。14の衣料工場と18の電子機器工場がロバン工業団地の10%を占める新たな産業としてシンガポール、マレーシアとインドネシアの共同作業で新たな経済発展を形成しつつある。


安価で良質な労働力

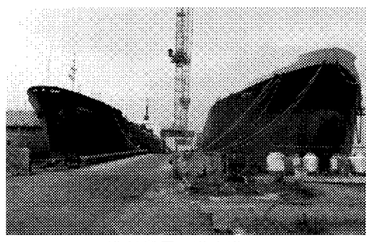
カリムン島 KARIMUN — 大きな可能性秘める

カリムン島は後発ながら今後に大きな可能性を秘めたフリーゾーンである。豊かな土地と海域に恵まれていることからシップヤード（造船、修理）、水産業、農業、畜産、観光産業の誘致に力を入れている。

バタム島にはすでに数十社のシップヤードが進出し適切な海域は満杯の状況。十分な水深を持つカリムン島を視察する造船会社が最近増えている。マラッカ海峡を通る船舶の数からみても将来の可能性は膨大である。石油、ガスをはじめ林業開発の可能性も大きく外国企業の進出に期待が大きい。

また、同島では農業も盛んであり、果物のドリアンも有名。カリムン島などを取り巻く小島群は漁業が中心で、農産物や魚を原料にする加工食品の外国投資にも期待している。

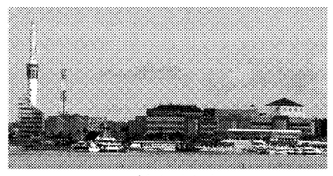
毎月2万人を数えるシンガポール、マレーシアから訪問者を迎える観光産業も有望な投資と考えられる。今後は海洋、農業、森林分野および貿易、ショッピングへの広がりも期待できる。


造船業界の進出進む

便利な投資手続きサービス
ワンストップ申請

バタム島の「バタム・センター」では、BBKなどリアウ諸島州への投資に必要な各種ライセンスが1カ所で取得できるワンルーフサービスを提供している。

海外からの投資企業に対してインドネシア投資調整庁（BKPM）への投資申請、財務省、法務移民省、各地方自治体への各許認可申請が「ワンストップ」で行え、素早いサービスを提供している。同センターでは、個人事業者であれば本人のパスポート、企業であれば登記簿だけで、商業ライセンスが数日以内に発行されるという。わざわざジャカルタに行かなくても同エリアの投資に素早く対応してくれる。


バタム・センター

BBKトピックス

シークス

シークスは、「部材のグローバル調達」から「物流」、「電子機器製造受託サービス（EMS）」まで、モノづくりのさまざまなアウトソーシング・ニーズに応える会社である。リアウ諸島州バタム島では、プリント基板とスキャナーの2工場が稼働している。12月に、ジャカルタに販売会社シークス・インドネシアを設立し、部材調達代行や在庫管理といったサービスを行うことになった。

巴バルブ

「市場ニーズを考える」ことを欠かさない巴バルブは顧客の急速なグローバル化にも対応するため、海外展開を積極的に進めている。東南アジア地域にも投資をしており、その一つインドネシアでは、バタム島西群のラトレード工業団地に進出している。そこで幅広いレンジのバルブをバタムの人たちとともに、「確かな技術」と「国際規格を満たす品質」のバタフライバルブとして世界に送り出す。

中京大学

中京大学では、アジアで通用する英語の勉強を目的として国際英語学部の学生グループをシンガポール、バタムなどに年3–4回研修旅行に送りこんで成果を上げている。

現地の大学や工場を訪問し現地事情の視察と友好親善に新たな道を切り開いて好評である。

SIIX We care.

インドネシアでのものづくりは、
シークスがお手伝いします。

カラワン工場（PT. SIIX EMS INDONESIA）外観

当社のインドネシアにおける2つ目のEMS工場、
PT. SIIX EMS INDONESIA（カラワン県）が
2011年7月より稼動を開始しております。

インドネシアで今後一層拡大が見込まれるエレクトロニクス関連、車載関連などの分野において、お客様のアウトソーシング・ニーズにお応えいたします。

お問い合わせ先：PT. SIIX EMS INDONESIA

住所：Jl. Maligi Ⅷ Lot S-4, Kawasan Industri KIIC Desa Margakaya, Kecamatan Teluk Jambe Barat Karawang 41361, Jawa Barat, Indonesia
TEL：+62-(0)21-8911-4685　FAX：+62-(0)267-863-1772
営業担当：木川

シークス株式会社

本　　社：〒541-0051 大阪市中央区備後町一丁目4-9　TEL: 06-6266-6400
東京営業部：〒102-0074 東京都千代田区九段南二丁目3-25　TEL: 03-3238-7000
東証・大証第一部 上場　証券コード：7613　ホームページ：http://www.siix.co.jp/
営業拠点：海外13ヵ所（タイ・中国・香港・シンガポール・フィリピン・アメリカ・ドイツ・ブラジル など）
自社工場：海外6ヵ所（タイ・中国・インドネシア・スロバキア）、国内1ヵ所　その他関連会社 13社

ポストBRICsの最有力候補インドネシア
成長するアジアの新たな核として期待高まる

激動するアジア経営戦略

中国・インド・ASEANから中東・アフリカまで

安積敏政著 ●A5判 ●定価3990円(税込)

■第1章　経営視点からの世界の注目市場の変遷
■第2章　日本企業のアジアの収益性実態
■第3章　業界別アジアの成長性と収益性実態
■第4章　これからのアジア戦略を視野に入れた注目地域
■第5章　これまでのアジア戦略、これからのアジア戦略

中国、インド、ASEAN…アジアで稼げない日本企業は生き残れない。アジアのダイナミズムを取り込まずして、日本企業の持続的な成長は困難だ。日本企業が生き残っていくための「これからのアジア戦略」を、具体的に提示した一冊。

◆お求めは書店または弊社出版局販売・管理部まで

日刊工業新聞社 出版局販売・管理部　〒103-8548東京都中央区日本橋小網町14-1　TEL03(5644)7410
http://pub.nikkan.co.jp/　FAX03(5644)7400